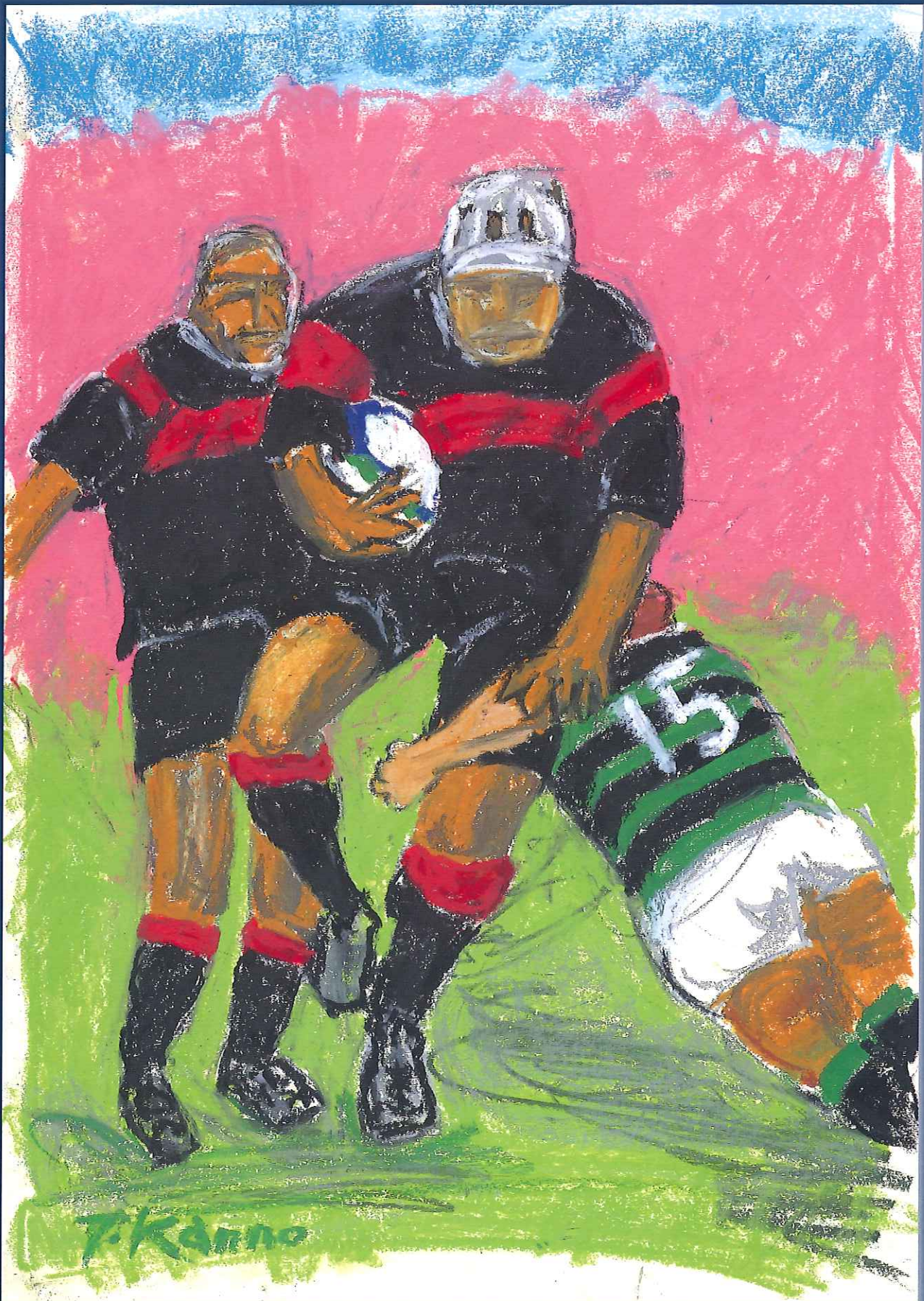


成蹊會誌



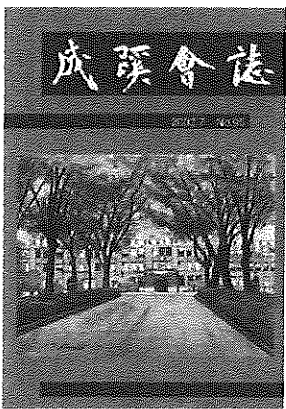
成蹊会誌100号発行記念 目次が語る成蹊会誌の歩み

成蹊会誌は1949（昭和24）年12月10日に成蹊会の機関誌として発行され、今号で通巻100号の発行を数えることとなりました。年2回（夏・冬）の定期発行を続けながら半世紀以上の歴史を積み重ねてきたことになりました。第1号は谷岡喜久蔵氏が編集兼発行人となり、縁ある同窓生の温かいお力添えを得て活版印刷A4版・6ページもので発刊されました。写真などは入らず、紙質もよくありませんが、

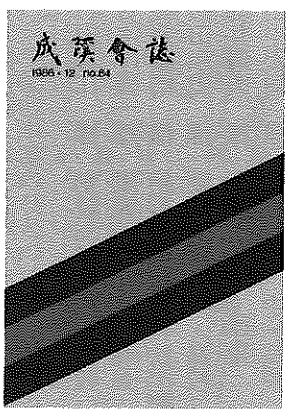
記事は今から読み直しても特筆されるものが多数あります。中でも第1号の紙面のトップを飾った成蹊実務学校同窓会委員長大類架婆吉氏の「私の気持」と題する随想は、母校の同窓生への親近感、母校への誇りと郷愁を強く感じつつ、活力ある同窓会づくりへの強い希望を述べておられます。表題の「成蹊会誌」の題字は神義鉄先生の筆によるものです。会誌の外観的变化としては、A5判



第1号



第64号



第64号



第8号

ながら表紙付きの冊子スタイルになったのは第8号から。サイズが拡大されB5判となったのは成蹊会創立50周年を迎えた1986（昭和61）年の第64号から。（表紙の題字が筆勢鋭い書家上条信山先生の筆に変わったのも同号から）そして4回目のリニューアルと

第1号 1949（昭和24）年12月	随想 私の気持……大類架婆吉（1）
成蹊会誌に寄せて……栗原一二（1）	成蹊断想……丹治孝三（1）
感想……村上正夫（2）	鷲馬の弁……大倉恒光（2）
論説……	学園外観……
成蹊実務学校同窓会委員長大類架婆吉氏「私の気持」と題する随想は、母校の同窓生への親近感、母校への誇りと郷愁を強く感じつつ、活力ある同窓会づくりへの強い希望を述べておられます。表題の「成蹊会誌」の題字は神義鉄先生の筆によるものです。会誌の外観的变化としては、A5判	成蹊会誌……
第30号 1969（昭和44）年8月	追悼 岩永源作先生の思い出・高山英華（1）
上野正二兄を偲ぶ……月川一（2）	随想 近頃思うこと……青木周吉（3）
偶感……赤星平馬（4）	「家作つちやたら」……井本農一（6）
所感……石坂泰彦（7）	広場についての随想……城戸毅（8）
成蹊と私の旅行……佐藤信一（9）	母校の思い出 思い出すままに……平塚保明（12）
小学校の頃……朝川澄夫（14）	成蹊時代を想う……大塚博（16）
学生時代の思い出……松井増夫（17）	高校8回生同窓会報告……加藤典子（18）
会員近況 会員短信……	成蹊学園近況 入学・卒業状況ほか……
成蹊会近況 人事・会議・事業……	成蹊会寄付金芳名録……
成蹊会費納入者……	物故会員……
表紙 本館前庭の風景……（写真）多賀谷義雄（11）	
第50号 1979（昭和54）年12月	インタビュー 人間性の高揚と学問の探求と……吉永泰水（2）
就任の辞 成蹊会長就任の御挨拶……丹治道生（6）	論壇 随想 成蹊高校生の海外留学……

して第95号からA4版のサイズとなりました。

現在、成蹊会事務局には成蹊会誌全号の表紙と目次をコピーした『成蹊会誌表紙・目次集』があります。直近の成蹊会誌は、学園幹部や成蹊会会長の巻頭の稿に続いて、成蹊会主催のイベントをレポートした特集記事、講演抄録などの特別寄稿、随想に代表される執筆寄稿、多数の同窓生から寄せられた消息近況報告、学部・年次同窓会・地域成蹊会などにおける重要行事の貴重な開催記録ともなる同窓のつどいへの投稿、事業報告その他公益法人としての諸報告、新聞等からの転載、成蹊会報告、事務局からの告知などを目次項目の定番として総頁数65頁〜70頁に集録しています。

今日、成蹊会誌は成蹊会広報委員会と成蹊会事務局が緊密に連携して企画・編集に携わっています。今号で100号の節目を迎え、過去成蹊会誌の編集・発行にご尽力いただいた多くの先輩各位のご苦勞の結晶が今日の成蹊会誌の姿になっていることに深い感謝の意を表します。同時に、これを機に改めて成蹊会誌誕生の事情をご理解いただき、第1号及び成長の節目の号数に当たる第30号・50号・70号の各目次とともに、成蹊会誌が歩んできた軌跡

を振り返って見たいと思います。

最後に、成蹊会誌は会員の会費により発行されています。成蹊会誌の今号より次号、次号より次々号が充実した誌面となるよう皆様のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

成蹊会誌の誕生

成蹊会誌第1号を諸兄の許に送る。此種の同窓会誌は戦前に於いては各学校同窓会別に発行していたが、その後途絶え同窓会の存在すらあるやなきやの状態が続いた。戦後は僅かに高等学校同窓会誌が一回出ただけである。今回は以前に発行されたことのある各学校同窓会誌を統合して『成蹊会誌』と名付け新発足した。これは成蹊会誌第1号の編集後記の一文です。各学校の同窓会別の発行から成蹊会発行の同窓会誌として生まれ変わり、各学校同窓会ばかりでなく各種の同窓会共通の存在感ある同窓会誌として継続的に発行されることになりました。成蹊会の目的である「会員相互の親睦」の促進に繋がるとともに、多種多様な同窓会の活性化にも大きな役割を果たすことが期待されます。

以下、成蹊会誌の主な目次項目について、その内容をながめてみることに

します。

随想

随筆・感懐・紀行・論説などを含む随想の玉稿はどの一編をとっても「これぞ成蹊人」の視点を感じさせる読み応えあるものばかりです。随想は依頼に基づき原稿を書いていただき、そのまま掲載する方法をとっています。執筆原稿にはその人となりが必ず出ます。同窓生個人としての自由な意見や要望をメッセージとして伝える。そうしたコミュニケーションの仲介役を果たすのもこの随想の役割の一つと考えています。

特別寄稿

学校学部同窓会委員会等において同窓生をゲストスピーカーとして行った記念講演・特別講演の内容や定年のため成蹊大学での研究・教育活動を退かれた先生の最終ゼミナール・最終講義の抄録などを中心に掲載されています。この特別寄稿の存在が成蹊会誌の一つの「におい」と「味」であると言えます。近刊号に取り上げたテーマ分野を具体的に紹介すると成蹊教育・成蹊精神、国政問題・国際情勢、健康・医療文化・教養、社会貢献活動などです。今後とも多様なテーマで情報の共有化に努めてまいります。

会員動静

人が一番興味・関心をもつのは

セントポールズ校……中島知（8）	カウラ校……橋手長治（9）
曾宮一念先生近況……加藤英夫（11）	美術の話……塚田晴可（12）
フイリッピンにおける地熱開発……	林 醇一郎・関 純（14）
第21回謝恩顕彰会……	謝恩顕彰会へお招きいただいて 佐々木金之助（16）
謝恩顕彰への感謝をこめて 徳永吉晴（17）	
会員動静……	同窓のつどい……
成蹊会近況 会議・人事・事業……	成蹊会の事業にご協力を……
物故会員……	表紙「タヤコヤケ」と成蹊……（構成）太田浪三（表紙裏）
表紙の説明……	
第70号 1990（平成2）年1月	就任 成蹊会会長に就任して 永井邦夫（2）
特集（講演）流動する中国政治情勢……	産業協同研究の諸問題……宇野重昭（4）
MITの教育と研究……増淵興一（16）	アメリカから見た中国問題……入江 昭（21）
このごろ思うこと……長山藍子（27）	随筆 Q.E.二世号 海の旅……井上正澄（29）
「怒りの葡萄」の地を車窓に見て……	吉岡 武（30）
使いやすさとは何か……虹川雅一（32）	同窓の集い……
成蹊大学地域懇談会・各地域成蹊会……	寮歌祭……
会員動静……	物故会員……
追悼 長友生野専吉君への弔辞……	河野義克（79）
成蹊学園近況……	成蹊会報告……
成蹊会創立50周年記念事業募金報告……	表紙裏（88）

して第95号からA4版のサイズとなりました。

現在、成蹊会事務局には成蹊会誌全号の表紙と目次をコピーした『成蹊会誌表紙・目次集』があります。直近の成蹊会誌は、学園幹部や成蹊会会長の巻頭の稿に続いて、成蹊会主催のイベントをレポートした特集記事、講演抄録などの特別寄稿、随想に代表される執筆寄稿、多数の同窓生から寄せられた消息近況報告、学部・年次同窓会・地域成蹊会などにおける重要行事の貴重な開催記録ともなる同窓のつどいへの投稿、事業報告その他公益法人としての諸報告、新聞等からの転載、成蹊会報告、事務局からの告知などを目次項目の定番として総頁数65頁〜70頁に集録しています。

今日、成蹊会誌は成蹊会広報委員会と成蹊会事務局が緊密に連携して企画・編集に携わっています。今号で100号の節目を迎え、過去成蹊会誌の編集・発行にご尽力いただいた多くの先輩各位のご苦勞の結晶が今日の成蹊会誌の姿になっていることに深い感謝の意を表します。同時に、これを機に改めて成蹊会誌誕生の事情をご理解いただき、第1号及び成長の節目の号数に当たる第30号・50号・70号の各目次とともに、成蹊会誌が歩んできた軌跡

を振り返って見たいと思います。

最後に、成蹊会誌は会員の会費により発行されています。成蹊会誌の今号より次号、次号より次々号が充実した誌面となるよう皆様のご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。

成蹊会誌の誕生

―成蹊会誌第1号を諸兄の許に送る。此種の同窓会誌は戦前に於いては各学校同窓会別に発行していたが、その後途絶え同窓会の存在すらあるやなきやの状態が続いた。戦後は僅かに高等学校同窓会誌が一回出ただけである。今回は以前に発行されたことのある各学校同窓会誌を統合して「成蹊会誌」と名付け新発足した。―これは成蹊会誌第1号の編集後記の一文です。各学校の同窓会別の発行から成蹊会発行の同窓会誌として生まれ変わり、各学校同窓会ばかりでなく各種の同窓会共通の存在感ある同窓会誌として継続的に発行されることになりました。成蹊会の目的である「会員相互の親睦」の促進に繋がるとともに、多種多様な同窓会の活性化にも大きな役割を果たすことが期待されます。

以下、成蹊会誌の主な目次項目について、その内容をながめてみることに

します。

―随想

随筆・感懷・紀行・論説などを含む随想の玉稿はどの一編をとつても「これぞ成蹊人」の視点を感ぜさせる読み応えあるものばかりです。随想は依頼に基づき原稿を書いていたが、そのまま掲載する方法をとっています。執筆原稿にはその人となりが出ます。同窓生個人としての自由な意見や要望をメッセージとして伝える。そうしたコミュニケーションの仲介役を果たすのもこの随想の役割の一つと考えています。

―特別寄稿

学校学部同窓会委員会等において同窓生をゲストスピーカーとして行った記念講演・特別講演の内容や定年のため成蹊大学での研究・教育活動を退かれた先生の最終セミナー・最終講義の抄録などを中心に掲載されています。この特別寄稿の存在が成蹊会誌の一つの「におい」と「味」であると言えます。近刊号に取り上げたテーマ分野を具体的に紹介すると成蹊教育・成蹊精神、国政問題・国際情勢、健康・医療文化・教養、社会貢献活動などです。今後とも多様なテーマで情報の共有化に努めてまいります。

―会員動静

人が一番興味・関心をもつのは

セントポールズ校	中島 知 (8)
カウラ校	横手長治 (9)
曾宮一念先生近況	加藤英夫 (11)
美術の話	塚田晴可 (12)
フィリップンにおける地熱開発	林 健一郎・関 純 (14)
第21回謝恩顕彰会	
謝恩顕彰会へお招きいただいて 佐々木金之助	(15)
謝恩顕彰への感謝をこめて 徳永吉晴	(16)
会員動静	(17)
同窓のつどい	(18)
成蹊会近況 会議・人事・事業	(42)
成蹊会の事業にご協力を	(48)
物故会員	(5)
表紙「夕やけこやけ」と成蹊	(47)
表紙の説明	(構成) 太田浪三 (表紙裏)
第70号 1990 (平成2) 年1月	
就任 成蹊会会長に就任して 永井邦夫	(2)
特集 (講演) 流動する中国政治情勢	
産業協同研究の諸問題	宇野重昭 (4)
MITの教育と研究	石原智男 (10)
アメリカから見た中国問題	増淵興一 (16)
このごろ思うこと	入江 昭 (21)
随筆 QE二世号 海の旅	長山藍子 (27)
「怒りの葡萄」の地を車窓に見て	井上正澄 (29)
使いやすさとは何か	古岡 武 (30)
同窓の集い	虹川雅一 (32)
成蹊大学地域懇談会・各地域成蹊会	(34)
寮歌祭	(41)
会員動静	(44)
物故会員	(46)
追悼 畏友生野専吉君への弔辞	(78)
成蹊学園近況	河野義克 (79)
成蹊会報告	(80)
成蹊会創立50周年記念事業募金報告	(88)

「人」そのものだ、と言われています。第3号に「会員消息」の頁が設けられ、200名規模の掲載でスタートしました。しかし号を重ねるごとに数を増し、第6号、7号ではそれぞれ400名規模に達したため、会誌の総頁数を16ページに増やし、その7割の頁が会員消息に充てられました。毎年、成蹊会会員総会の通知状の通信欄に書かれた個人の短信（いわゆる1000字コメント）を原文の通り一覽的に転載するもので、「会員消息」はその後「会員近況」「会員動静」とタイトルが変わりました。「会誌はこの紙面から最初に読む」「結構エネルギーがいるけれど、隅から隅まで読んでいる」といっている会員があるなど目次の定位置を占めています。（現在、「会員動静」は年に1回毎冬号のみの掲載です。）

―同窓のつどい
「同窓のつどい」というタイトルが会誌の目次に登場したのは第45号からですが、第10号から掲載された「成蹊会近況」、第11号からの「地方支部便り」が「同窓のつどい」の先駆けとなりました。成蹊人が一つに集う族吾等の成蹊桜祭、先生を囲む師弟の心豊かな交流会、学校・年次年会、クラブOB会・趣味のつどい、業界・企業成蹊会、地域成蹊会、寮歌祭など凡ゆる同窓生

の会合を記事と写真とで綴る、読んでいて楽しい、元氣が出る誌面です。「同窓のつどい」への投稿はその時々「集い」の模様を歴史的に記録として残す意味もあります。

—新聞記事の転載

第37号から、学園の先生や各界・各分野で活躍されている同窓生で新聞などマスコミに取り上げられた方の記事を転載させていただくことにしました。

「ああこの方も成蹊の先生、成蹊の同窓生、……」と認識を新たにしていたけたらと思います。

—学園の近況

同窓生への広報の役割を果たすために
学園総務及び学園史料館 小・中・
高・大学の各校から提供いただいた記
事を掲載してきました。しかし、「学
園広報」が充実され詳報されることと
なりましたので、学園関連近況記事・
学園史料館情報などは第95号を境に掲
載を減らしています。

—成蹊会事業報告・成蹊会報告

成蹊会の事業は次の二つに大別されます。一つは同窓会事業で、その主なものは機関紙・同窓会名簿の発行、同窓会支援、会員サービス、学園経営への協力などです。他は公益事業として行う母校支援事業で、その主なものは成蹊会奨学金の貸与、先生方の学術・教

育・研究活動などへの助成金の贈呈、国際交流活動支援・スポーツ振興・文化振興のための在校生に対する後援金の助成などです。成蹊会の事業報告並びに諸報告は会員の理解を得るために成蹊会通常総会での説明のほか成蹊会誌にも掲載しています。

表紙

成蹊会誌の表紙絵は、校舎

のスケッチ、写真家が切り撮った成蹊の風景、中村春二先生が詠まれた和歌と先生のスケッチ、学園建学の三先生の肖像画、学園で出会える植物や鳥、学園をイメージした造形デザインなど多種多様なアートがシリーズものとして掲載されましたが、その後は新しい世代の感性を取り込んだ表紙絵を希望する声を反映して、同窓生で新進気鋭のプロの作品が表紙を飾りました。ここ数年は成蹊卒業生の「彩蹊会」にお願いして、成蹊に由縁のある事象や成蹊を象徴する風景・表情をテーマに、自由な題材・画材・表現方法による作品を提供していただいています。

—表紙裏

表紙裏の活用の中で、時代をさかのぼる1954（昭和29）年10月発行の第

處世七訓

- 一、常にわが務を思へ
- 一、借の上に立ちて努力せよ
- 一、境遇に同化せよ
- 一、多く働くことを光榮とおもへ
- 一、日々自己の倦怠を省みよ
- 一、病は自己の油斷と思へ
- 一、後輩の續き來たるをおもへ

— 中村春二訓 —

9号には創立者中村春二先生の「處世七訓」が掲載されました。同号の編集後記には「成蹊実務学校―成蹊学園創立当時の学校―卒業式に於ける卒業生に対する訓辞で、これから実社会に出る人達への餞の言葉であり、現代我々にも通じる訓戒と信じここに引用しました。」と説明があります。

§お知らせ§

成蹊会誌全号のバックナンバーが成蹊会事務局に保存されています。残部が僅少又は皆無のため、配布のご希望には沿いかねますが、記念誌編纂等で閲覧またはコピーを希望される方は成蹊会事務局までお申し出ください。

成蹊会広報委員会

成蹊會事務局

特別寄稿

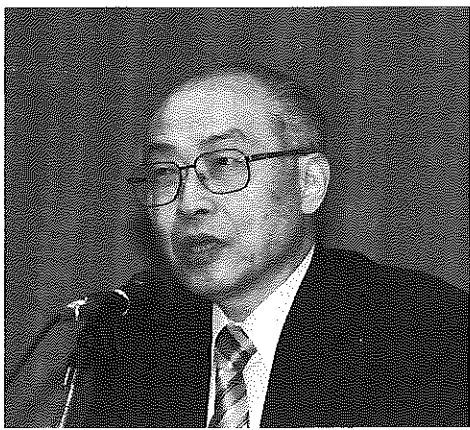
37年間を振り返って

柳井道夫

本稿は平成16年5月22日開催の柳井道夫学長ご退官記念講演会（大学10号館）でのお話を抄録したものです。

37年間を振り返って……という題でお話することになさせていただきましたが、6歳で成蹊小学校に入学以来現在69歳。その間、数年のブランクの間も佐々木ゼミにたびたび参加したり、非常勤講師をしていた時期があつたりで、実にほぼ60年にわたる成蹊とのご縁ということになります。

教員としては1970年文化学科の1期生との出会いに始まり、2003年3月文化学科最後の35期生を送り出すまで、つまり文化学科の始まりから文化学科の終りまで、お付き合いをさせていただきました。着任当時は32歳、5つの授業科目を担当、ほかに3校で



講義を持っており、助手の仕事もする
ようにと言われていたため、頑張つて
論文を書くには寝る時間を削るしかな
いという状態が続きました。

長とつくものにはならないと決めていたのに、任期途中での退場者のピンチヒッターとして学生部長、アジア太平洋研究センター所長という2つの長をおおせつかり、その後、学部長をやり、学長にまで選出され、まさに青天の霹靂でした。それまで学内の刊行物にも写真掲載さえ拒んできましたが、学長ともなるとそうもいかず、以来逆になるべくメディアに登場するよう努めたつもりです。産経新聞・サンデー毎日・文芸春秋と、顔を出しました。その都度同期生・卒業生に助けられました。感謝のかぎりです。

幸いにも最近の『サンデー毎日』で「伸びた大学」の1位に成蹊挙げられるなど、メディアに取り上げられることが増え評判は上々です。

心残りなのは、地域の消防・警察・小中学校と連携した防災対策を軌道に乗せ、地域との連携を図りたかったのですが、できずに終わってしまったことです。

今後はゆつくり時間を取って奈良あたりの仏像を見て歩きたいと思っていますが、今は大学基準協会の専務理事を引き受けている上、文部科学省での委員の仕事もあり、まだまだゆつくり時間を取れそうにありません。

何はともあれどうにかこうにか学長の任期を終えるに当たり、ホットする

と同時に、現在全国の4年制大学の3分の1、約150校が、入学定員を満たすことができず、事態はますます深刻化する中で、成蹊大学が今後も伸び続けてくれるよう、今度は立場を替えて切に願ひ、見守りたいと思っています。・・・

当日は教職員卒業生180余名の盛大な拍手を背に、柳井先生おおいに照れながらもご登壇となりました。大変貴重な土曜日の開催で運びいただいたこと、恐縮のかぎりです。私としては大変お恥かしい……とおっしゃりながらも最後のお役目・義務ともおっしゃって特別講座の開講となりました。

四方山話から軽妙・即妙のオブラートに包んで、笑っているうちに、いつのまにか始まっていく核心の話題・

学生の気分のままに柳井節をおおいに懐かしみつつ楽しんだひとときでした。

1960年代後半から21世紀にまたがる37年間には、学生運動の嵐に日本中が揺れた一時期でもあり今の学園からは考えられないが、成蹊大学でも1号館が学生に占拠されたり機動隊が学内に入ったりの学生運動の嵐が通過した時期でした。そんな中でも柳井先生には学内の発展改革にご尽力されました。

1976年には米大統領選を研究に渡米。フォードのカーターの両陣営と接点を持ち、当時では数少い1年間の長期滞在の成果は後のご著書に詳しく記されています。

その後成蹊の国際化も目指され、1983年、アジア太平洋学研究センターとの提携機関を選定すべく、東南アジアに出張。タイ・チェンマイ大学との今に至る交流、留学生受け入れへとつながる。シンガポール・マレーシア・タイへの出張はさまざまなトラブル・ハプニング続きだったが、反面悪い出もいっぱいのご旅行だったと拝察します。

学部長・学長になられてからの数年は、お話にある通り、メディアをフルに活用され、まさに八面六臂のご活躍で成蹊をその名のごとく多くの人に集まる大きな結果としてみせて下さいました。

これからは同じ成蹊の同窓生として益々お近づきをよろしくお願いします。

澤井明子（文・50年）

成蹊会報告

〔自平成16年5月1日
至平成16年10月31日〕

一、会員総会

■第49回通常総会（16・6・19）

- (1) 平成15年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
- (2) 平成15年度財産目録承認の件
- (3) 平成16年度事業計画及び収支予算案承認の件

二、会議

■理事会

第153回理事会（16・5・11）

- (1) 第49回成蹊会通常総会付議事項審議の件
 - (2) 成蹊会特別会員（教職員）推薦の件
 - (3) 第44回成蹊会謝恩顕彰の対象者追加の件
- #### 第154回理事会（16・7・8）
- (1) 成蹊会特別委員会委員（補充）選任の件
 - (2) 在校生からの年会費徴収の件
- #### 第155回（16・10・21）
- (1) 平成16年度中間決算報告の件

■評議員会

第56回評議員会（16・5・10）

- (1) 第49回成蹊会通常総会付議事項の件

第57回評議員会（16・8・9）

- (1) 成蹊会監事選任の件

第58回評議員会（16・10・21）

- (1) 平成16年度中間決算報告の件

■特別委員会等

- 育英奨学委員会（16・5・17） 学術・教育助成委員会（16・5・17）
- スポーツ振興委員会（16・5・20） 成蹊桜祭委員会（16・5・26）
- 総務企画委（16・5・27/16・6・25/16・7・14/16・9・9）
- 広報委員会（16・6・28） 成蹊桜祭委員会（16・10・14）

■同窓会

- 経済学部同窓会委員会（16・7・13）
- 工学部同窓会委員会（16・9・8）
- 高校（旧制）同窓会委員会（16・9・16）
- 高校同窓会委員会（16・10・15）

■支部会・地域成蹊会

- 長野成蹊会（16・5・15） 愛知成蹊会（16・5・27）
- 青森成蹊会（16・5・30） 沖縄成蹊会（16・6・5）
- 愛媛成蹊会（16・6・13） 遠州成蹊会（16・6・19）
- 佐賀成蹊会（16・6・26） 新潟成蹊会（16・6・27）
- 成蹊会千葉支部総会（16・7・3）
- 大阪・奈良・和歌山成蹊会（16・7・3）
- 渋谷成蹊会（16・7・10） 愛知成蹊会（16・7・31）
- 山形成蹊会（16・8・22） 成蹊会九州支部総会（16・10・6）
- 岡山成蹊会（16・10・18）

三、人事

■監事の異動（第57回評議員会）

- 梶谷 剛（退任） 井原 一雄（就任）

四、刊行物

■成蹊会誌第99号（16・7・1）

平成16年12月1日

成蹊会理事候補者推薦に係わる公示

社団法人 成 蹊 会

成蹊会理事候補者を推薦して下さい。

社団法人成蹊会には、理事会が組織されています。

成蹊会の理事は、評議員会において選任されており、次期成蹊会理事の改選は平成17年6月に行なわれます。

このため、成蹊会でのより活発な活動と母校への貢献を目指して、新鮮な企画力、判断力に満ちた理事を求めています。是非「この人」と思う方をご推薦下さい。

ご自分を推薦されても差し支えありません。

成蹊会理事会は、事業計画、収支予算・決算、財産の状況、剰余金処分、その他組織・人事・諸規則など会の運営についての諸事項を審議し、議決する機関です。

なお、成蹊会理事に選任された方の中から、理事会において成蹊会会長、副会長、常務理事が選任されます。

これらの重要な役割を認識いただき、成蹊会の運営に直接貢献しうる人材を自薦・他薦していただければ幸いです。

推薦方法

- 所定の推薦状を使用してください。

（推薦状の用紙は成蹊会事務局まで、電話又はメールにてご請求下さい）

電話 0422-51-2244 メール seikeikai@jim.seikei.ac.jp

- 推薦人は個人2名（1名可）までとします。（自薦の方は本人を記入）

- 推薦状には必要事項を全てご記入願います。

推薦状の締切日・送付先

- 郵送にて受け付けます。

平成17年3月31日（木）必着＜期日は厳守願います＞

- 送付先 〒180-8633

武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

社団法人成蹊会事務局気付 推薦委員会委員長 宛

理事の定員・任期等

- 理事定員数は20名以上30名以内（定款第13条第1号）

- 任期は2年（平成17年7月1日から平成19年6月30日まで）

再任を妨げませんが「連続」10年を限度とします。（池袋・女学校各同窓会を除く）

- 原則無報酬です。理事会の出席に際し交通費・日当は支給されません。

平成17年1月1日 発行所 社団法人 成蹊会 発行人 瀧 秀彦
企画・編集 成蹊会広報委員会・成蹊会事務局 印刷・製本 株式会社 光 邦
〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 0422-51-2244 FAX 0422-54-6766
メールアドレス seikeikai@jim.seikei.ac.jp ホームページ <http://www.seikei.ac.jp/seikeikai/>